

## 私の進路選択

小嶋奎吾（修士課程一年）

中国文学研究室に進学した経緯について書くとのことなので、それについて簡潔にまとめたいと思う。

中文進学を決めたのは2年次春学期で進学選択を行う際であった。ただ、中国文化に対する漠然とした興味はだいぶ前から持っていた。中国の文化に興味を持ち始めたのは、小学生の頃に中国の歴史のマンガを読んだことからだったと思う。中学・高校でも国語の授業で漢文を読んで、より興味が強まった。何か中国の古典を読むなどということはしなかったが、次回の授業が楽しみな教科だった。一方で、高校時代には恩師の影響で社会学にも興味を持ち始めていた。

大学に進学した時点ではまだ進学先を決めかねていて、駒場で様々な分野の授業を履修する中で、自分の最も興味のある分野を探そうと考えていた。そこで東洋古典学や古典中国語などの授業を履修する中で、中国古典文学に興味を持ち、中国文学専修課程への進学を決めた。

その後の学部2年間では、日々の授業の予習や卒業論文に取り組む中であつという間に過ぎてしまったような、受動的に過ごしてしまったような感覚があり、もう少し勉強したいと考えて大学院進学を決めた。

このように、自分の場合、大学に入学するときから中文研究室に進学しようとか、中国文学を研究したいとか考えていたわけではない。駒場で教養科目を履修する中で、自分の興味を持てる分野を見つけ、その後で進路を選択することが出来るという仕組みを利用した形だ。中文進学を考えている方の参考になれば幸いである。